

温故知新 北海道大学  
**挑戦の140年**

SCENE-18  
**1914-1926**

「医学部の設置」



1. 今裕教授 (1926年ころ)
2. 山崎春雄教授 (1926年ころ)
3. 秦勉造教授の臨床講義 (1926年ころ)
4. 医学部基礎建物と校庭 (1920年代後半)
5. 太黒薫教授 (1926年ころ)
6. 手稲山のパラダイスヒュッテ (1932年ころ)
7. 医学部基礎建物遠望 (1923年ころ)
8. 階段教室における看護法講習科の講義 (1934年ころ)
9. 医学部附属病院建物遠望 (1926年ころ)
10. 阿部宇之八札幌区長 (1913年ころ)



医科大学新設運動

東北帝国大学農科大学にもう一つ分科大学を新設して、札幌に二分科大学からなる帝国大学を創設しようとする「大学独立問題」は、一九一六年ころには医科大学を創設する方針に議論の集約がなされていた。当時、札幌区立病院（現在の札幌市中央区北一条西八〇九丁目）は、施設の老朽化、狭隘化に加え、伝染病流行に対応するための設備の更新など、建物新築が課題となっていた。札幌区会では、医科大学新設の議論を踏まえ、新たに建設する区立病院は将来的にその附属病院に改組することを念頭に置くべき、との議論が上がった。福岡の九州帝国大学や仙台の東北帝国大学は、いずれも地域の病院・医学校の組織・建物を大学に転換する形で医科大学新設を実現していた。札幌区立病院の活用案は、地域から医科大学新設による大学独立を強力に後押しする動きであった。

当初は理工科新設に重きを置いていた佐藤昌介東北帝国大学農科大学学長は、こうした地域の動向を踏まえ、北海道における医学士養成の必要などを理由として、文部省へ医科大学創設を要求していく方針をとった。他の帝国大学はいずれも医科大学を有しており、帝国大学の体裁として医科大学設置は必須との理屈付けもしている。佐藤学長は長年、札幌農学校を総合大学へと拡充していくことを使命と考えていた。まずは東北帝国大学から独立して、農・医二分科大学からなる北海道帝国大学を創設し、順次、理工科・法文科などの分科大学を増設して、総合大学化するビジョンを描いたのである。

成を開始した。看護法講習科は現在の医学部保健学科の前身組織に当たる。一九二二年の医学部開学時の教授陣は、有馬英二（内科学）、秦勉造（外科学）、山崎春雄（解剖学）、宮崎彪之助（生理学）、太黒薫（医学）、今裕（病理学）である。札幌区立病院長から転出した秦勉造が初代医学部長に就任した。初代附属病院長には有馬英二が就いた。秦の四十四歳を最年長とし、三十歳の太黒など、清らかな顔ぶれであった。

医学部新設がもたらしたもの

医学部新設は北大にさまざまな変化をもたらした。それまでキャンパスの中心は、正門から農学部建物に至る北八条付近、北は恵迪寮があった北十一条付近までであった。医学部建物は現在の北十三条通りを挟んで南側に医学部基礎、北側に附属病院が建ち並び、キャンパスは大きく北へ広がった。附

の北端にして、人煙稀疎の地域なりしも、一朝医院のこゝに建つや、忽ち期待する所大なるを窺ふべく……」（『北海道帝国大学沿革史』）

地域の強力な支援

佐藤学長は、俵孫一北海道庁長官、阿部宇之八札幌区長と連携し、文部省との交渉を精力的に行なった。当時、大隈重信内閣の高田早苗文部大臣は、佐藤学長が札幌農学校入学前の東京英語学校で同窓の旧友であった。高田文相は、医科大学新設による北海道帝国大学の独立に賛意を示した。一九一六年九月、国庫に負担を与えないことを条件に、医科大学創設費一四六万円と八ヶ年継続支出を承認した。予算案は一九一七年七月の第三十九回帝国議会で可決成立した。

創設費一四六万円を、北海道庁から一〇万円、札幌区から一〇〇万円、財界からの寄附三〇〇万円余りで充当するという予算案である。当時、『北海タイムス』に名称を「札幌帝国大学」とするべきだとする読者投稿がなされたほど、札幌区の果たした役割は大きい。札幌区立病院を附属病院へ改組する案は結局実現しなかったものの、札幌をはじめとする地域の支援なくして、医科大学新設、大学独立はなかった。

北海道帝国大学医学部の成立

一九一八年四月一日、北海道帝国大学が開学し、大学独立が実現した。間もなく、「分科大学」は「学部」と名称が改まり、一九一九年四月一日に北海道帝国大学は農学部、医学部を置くこととなった。一九一九年に予科へ医学部進学希望者が入学し、三年後の一九二二年四月に医学部第一期生六十七名を迎えた。これに先立ち、一九二一年十一月に医学部附属病院が診療を開始した。この附属病院の開業の前、一九二〇年九月には看護法講習科を設置して看護婦の養

「此の大学医院の近傍たる元来札幌市して繁栄の一市街を現出す。世人の期

属医院には多くの外来患者が訪れ、人の往来が増えた北十三条門の外は街の形成が進んだ。さらに医学部に赴任した教授陣が北大に異風を吹き込んだ。新進気鋭の医学部教授陣は、直近に洋行経験があり、一九一〇年代の東京で新興文化の空気を存分に吸っていた。ほとんどが札幌農学校・東北帝国大学農科大学出身者であり、少なからず農学校以来の遺風を身に纏っていた農学部教授陣とは対照的であった。例えば、山崎春雄や、一九二四年に赴任した大野精七（産婦人科学）は、登山や山スキーを趣味とし、山岳部やスキー部の活動、山小屋の建設、関連著述など、北海道の登山文化に大きく寄与する。そして、北海道帝国大学は、早くも一九一九年に三つ目の学部、工学部の設置が決まった。北海道帝国大学総長に就任した佐藤昌介の思惑通り、総合大学への道を進んでいく。

**Hokkaido University HISTORY**  
1914-1926

1914年 11月	『北海タイムス』紙上で、札幌区立病院改築が大学独立と関わり話題となる
1916年 8月	佐藤昌介学長、俵孫一北海道庁長官、阿部宇之八が上京、文部省と交渉
9月	22日、閣議が医科大学創設経費予算案を承認
1917年 7月	帝国議会が医科大学設立予算を承認
1918年 4月	1日、北海道帝国大学設置
1919年 4月	1日、北海道帝国大学農学部、医学部設置
9月	予科に医学部進学希望者が入学
1920年 6月	医学部本館建物落成
9月	看護法講習科設置
1921年 4月	23日、医学部附属病院設置
5月	秦勉造が医学部長に就任
9月	医学部附属病院本館建物落成
10月	有馬英二が医学部附属病院院長就任
11月	医学部附属病院開院
1922年 4月	医学部第1期生67名入学
1926年 3月	医学部第1回卒業式

**大学文書館** だいがくぶんしょかん  
 Hokkaido University Archives  
 北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。